

CO・OP

京都の生協

2006/JANUARY/No. 58
京都府生活協同組合連合会



「映画のまち・京都」をめざして
——コミュニティ・シネマの可能性にかける——

Talk Talk トークとーく

株式会社 きさらぎしや 如月社 代表取締役社長 かみや まさこ 神谷 雅子さん

京都府生活協同組合連合会 会長理事 こばやし ともこ 小林 智子

対談

TalkTalk

トークとーく



「映画のまち・京都」をめざして

—「コミュニティ・シネマの可能性にかける」—

株式会社

如月社

代表取締役社長

神谷 雅子さん

京都府生活協同組合連合会

会長理事

小林 智子

日本映画発祥の地である京都——映画は京都の地場産業でもある。シネマ・コンプレックスの郊外への展開や都心型シネコンの開業の半面、地域に根づいた映画館づくりの動きもはっきり

みておきたい。京都シネマの代表として、また大学で映画産業論を担当する講師としても活躍中の神谷雅子さんに、映画とのかかわりやこんごへの思いをお話ししていただきました。

京都のまちとむすびついた映画館として ——京都シネマの誕生

小林 このたびは「京都府あけぼの賞(※)」の受賞、おめでとうございます。

小林 いのだらうかとおどろきました。(笑) 神谷さんの、京都シネマという映画館と大学や地域をむすびつける活動が評価されたのでしょうか。

神谷 ありがとうございます！でも、私のようなものがいたでいい

神谷 だとすれば、とてもうれ

いですね。京都シネマは、まだオープンして1年あまりですが、こんなもずっと京都のまちとむすびついた映画館でありつづけたいと思っています。

だれでも楽しめる映画館に——バリアフリー上映

小林 京都シネマでは、バリアフリーの上映会をなさいましたね。

小林 た企画でしたので。具体的にはどのようにバリア

神谷 ええ、ぜひ取り組みたかつ

アをとりはらったのですか？

神谷 まず日本映画に日本語のセリフ字幕をつけ、さらに副音声で情景の説明をしています。以前から、

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談

「映画のまち・京都」をめざして

—コミュニティ・シネマの可能性にかける—	2
“食の安心・安全”をめぐる	
「知事と和い和いミーティング」	7
京都府食の安心・安全推進条例制定へ	8
京都市消費生活条例施行記念シンポジウム開かれる	9
内閣府・京都市のよびかけで消費者団体懇談会開催	9
京都府「安心・安全な消費生活の実現プラン」アクションプランまとまる	9

第12回京都府生協大会

「2005・京都・たべるといせつ」フォーラム

「京都の生協活動功労者表彰式」開催

京都府総合防災訓練おこなわれる

TOPICS

●消費者支援機構関西が設立総会

●第17回近畿地区生協・行政合同会議開かれる

●第54回京都府社会福祉大会で京都生協に感謝状

●京都府生協理事長懇談会

●第6回京都府協同組合職員体験・交流学校

●京都府災害ボランティアセンター研修会

●KYOのあけぼのフェスティバル・ワーク

●ショップに参加

●浦島エコーの森づくり・植樹ボランティア

●京都府生協連理事会で学習会

●京都府勤労者健康スポーツフェスティバル

●2005年度ライフプランセミナー

●第6回産直フォーラム(鳥取)

おもな行事のお知らせ

探訪 京都府消費生活科学センター

※京都府あけぼの賞…男女共同参画によるゆたかな地域社会の創造にむけて、女性のいっそうの能力発揮に資するため、各分野での先駆的活躍とくに功績のいちじるしい女性やグループに授与される。2005年度は4人1組が受賞した。

聴覚障害者のかたがたの「洋画は字幕があるからみるけど、日本映画はわからないからみない」というお声をうかがっていましたが、視覚障害者のかたがたも、とくに中途失明されたかたはイメージの記憶をもっておられるので、色や形など、スクリーンに写っているものを音声で説明すると、映画を楽しんでいただけるんです。

小林 副音声はヘッドフォンできくんですか？

神谷 いえ、うちはスピーカーで客席全体にきこえる方式ですが、これは健常者のかたにもよろこばれることがあるんです。たとえば「二人日和」という映画は、神職の装束を

つくる京都の町家が舞台ですが、神祇装束司の仕事場なんて一般の人にはなじみがありませんよね。でも、副音声で装束の種類やもちいる道具の種類、それらの色や形、役割や使い方などが説明されるので、映画がよりふかく理解できるわけです。

副音声は健常者には耳ざわりだとうご意見もあるかもしれませんが、すべての映画でこのやり方が可能だとも思いませんが、私は、ときにはみんなが同じ条件でみることもたいせつだと思ふし、私たちがそういう鑑賞の仕方になれることも大事ではないかと思ふます。

小林 障害をもつ人とたない人が、映画をつうじて空間や時間を共有する機会を、なるべくふやしたいですね。

神谷 ええ、「映画はだれでも楽しめるもの」ということがあたりまえの社会になってほしいし、そのために京都シネマになにができるのかを考えていきたいと思ふています。

映画館の誕生から終わりまで経験して

小林 そもそも神谷さんは、どういう経過で映画の世界に？

神谷 ひとことというとうと、「たま（た）ま映画だった」んです（笑）。

小林 それは意外ですね。

神谷 私は大学を卒業して7年間、新聞記者をしました。文化や芸能に興味があったので、取材もその分野が多かった。まだ大秦に大映京都撮影所があったころで、映画の連載を担当したときは何度も大秦に通いました。「京都は映画と縁のふか

いまちなんだ」と痛感しはじめたころ、タイミンゲよく「京都にミニシアターをつくらう」という構想を取材先できいて、私もやってみたく思ふたんです。

私は、文化の現場に興味があつて、京都に文化のスペースをつくりたかつた。その意味では、映画ではなく、たとえば演劇でもよかつたかもしれない。

だから「たまたま映画だった」んです。でも、映画でよかつた！と。



株式会社 如月社 代表取締役社長
神谷雅子さん



京都府生活協同組合連合会 会長理事
小林 智子

人びとの日々の暮らしや想いとともにある映画館

神谷 そうです。それで記者から朝日シネマの開業準備スタッフに転職して、映画興行の世界にはいりました。

小林 朝日シネマは、派手ではな
いけれどもキラリとひかる映画、個

性的な映画を上映して、固定ファンが多く、2002年に閉館が発表されたときは存続をもとめる署名運動までおきましたね。

神谷 あのと時のみなさんのはげ
まは、ほんとうにありがたかった

し、京都シネマをつくるおおきな力になりました。それに、私にとつては、ひとつの映画館の誕生から終わりで、そのすべての過程に立ち会えたことは、ほんとうにえがたい経験でした。

小林 京都シネマを紹介するとき、「コミュニティ・シネマ」という言葉がよくつかわれますが、どういう意味なんですか？

神谷 もともと文化庁の外郭団体の国際文化交流協会が、日本映画振興策のひとつとして、「制作側ではなく上映する側にもつとサポートを」という方向性をだして、コミュニティ・シネマ支援センターをたちあげたところからでてきた言葉です。

コミュニティ・シネマの定義については、いろいろな議論がありますが、現在、私もふくめた関係者のあいだでは、ほぼつぎのような理解で一致しています。

つまり、「コミュニティ・シネマとは、地域にひらかれ、地域の人びとの文化的コミュニティになりえる映画館。その方向をめざす映画館」のこと。

これはまさに私が朝日シネマで14





年間やってきたこととおなじで、それがいま国の政策としてもいわれるようになったわけです。でも、国の施策かどうかという以前に、映画館つてもともと、自分のコミュニティ・エリアのなかにあつて、安心して行けて、ワクワクしながらスクリーンをみつめて、いつも家族や親しい人びととの思い出とともにある場所だったでしょう？

小林 そうそう、私の子どものころはね、東映の時代劇の全盛期で、2本立てとか3本立てがあたりまえ。

母の仕事が休みの日に、いつしょに映画館に行つて、ワクワク・ドキドキしながら映画をみて、映画のあとは食堂でオムライスを食べるのがささやかな楽しみでした(笑)。

神谷 私たち以上の年代はみんな、そういう思い出をもっていますね。やっぱり映画館のおおきなスクリーンでみると、迫力も全然ちがうし、ほかの観客と一定の時間と空間を共有する経験もできます。そうした「映画館で映画をみる楽しみ」を、いまの子どもたちも味わつてほしいし、そうした場を提供することもコミュニティ・シネマの役割のひとつだろうと思っています。

映画は世界の共通語／社会と文化への理解をふかめる

小林 上映作品はスタッフが相談して決めるんですか？

神谷 いえ、ほとんど私の独断です(笑)。そうしないと映画館の特徴がだせないで、各地のミニシアターもだいたい同じです。

小林 じゃ韓国映画のラインナップが多かったのも、神谷さんがお好きだったから？

神谷 韓国映画については、私が好きというより、まずはブームで観客がみこめる！ ビジネスの部分もおおきいです(笑)。

ただ、スター映画だけではない多様な韓国映画もみていただきたい。韓国では、映画人たちが自国の文化をまもるためにハリウッド資本の圧力とたたかい、民主化以降は国家的プロジェクトとして映画・映像産業

を育ててきました。そうした背景や韓国社会の姿、日本との歴史についても、スターたちと同様に目をむけてほしいんです。韓流(ハングル)ブームの背景には、儒教国らしい折り目正しさや濃密な人間関係の魅力があると思いますが、そのもとにある社会と文化への理解をふかめていただけだと。

そこにむけたひとつのこころみとして、韓国映画の上映前に、印象的なセリフのハンゲル・ワンポイント講座も予定しています。

小林 映画を通じて、ほかの国の人びとの社会や文化にふれることができる。映画にはそういう魅力や役割があるんですね。

神谷 「映画は世界の共通語」といわれるのは、複製芸術だから世界

中どこでもみることができて、その映画をまんやかにすえて語りあえるからです。だから、うちではアジアやアフリカ、中南米など、ハリウッドのメジャー映画ではない映画を積極的に上映しています。たとえば、生活のために麻薬の運び人になるコロンビアの17歳の女の子や、12歳で徴兵されるエルサルバドルの少年をえがいた映画は、テレビニュースよりもはるかに的確に、ふかく、世界の「現実」をつたえてくれます。



「映画をみる力」を育てる」と

小林 そうすると、子どもたちに、映像の見方や「映画館で映画をみる楽しみ」を味わわせたり、教えたりすることが大事になりますが、それは「食育」という考え方も共通しますね。

たべものの育て方や食卓にとどくまでの過程、からだのなかでのほたらしきを教えたり、ほんとうのおいし

さを味わわせることは、生きる力にもつながるといふことで、生協でも「たべる たいせつ」をテーマに取り組んでいるんですよ。

神谷 食の教育も映画・映像教育も、ゆたかな人間性を育てるうえでとてもたいせつですよ。図画や音楽と同様に、小学校低学年のカリキュラムにも、ぜひとりいれていただ

けたらと思います。

小林 メディアを読み解く、つまりメディア・リテラシー教育ということがいわれていますね。

神谷 そう。すべての映像は、つくり手の意図のもとでつくられている。だから、流れた映像をうのみにしてはだめなんです。フランスやイギリス、カナダなどでは、メディア・リテラシー教育の一環として、子どもたちに映画をみせて、自分はどこに感動したのか、それはなぜな

のかを議論させ、感性をみがかせています。

マスメディアからあたえられた映像を、そのまま「真実」としてうけとめないで、多様な視点から考える能力をもつことは、次代をなう市民としてたいせつだと思われ、そういう市民を育てることは社会にとっても価値あることだと思います。その意味で、いま京都シネマにとってたいせつなのは「観客づくり」だと思っています。

「映画のまち・京都」をめざす

小林 2つの撮影所が残っていて、カツラや衣装など関連産業の層もあつい京都では、映画も地場産業といえますね。

神谷 やはり「日本映画のふるさと」ですし、大学のまち、若者のまちでもあるし、最近では映像関連の学科をもうける大学もできましたから、ほんとうの意味で「映画のまち、映画都市」になって、市民のなかから将来の映画産業のない手がうまれてほしいですね。

小林 つくり手を育てないといけませんね。

神谷 撮影機材や記録媒体が発達しても、やっぱり基本はオリジナルのソフトですから、それをうみだせ

る映画人が育ててほしいですね。

小林 映画を上映する場所も大事です。

神谷 そう、つくっただけでは映画ではない。できあがった作品は、みてもらってはじめて映画になる。だから、観客と出会う場所が大事なんです。

手前味噌ですが、映画をみる場所



神谷 そう、つくっただけでは映画ではない。できあがった作品は、みてもらってはじめて映画になる。だから、観客と出会う場所が大事なんです。

小林 京都シネマのこんごがとも楽しみななってきました。人に生きる力をあたえてくれるものとしての映画を、食事をいただくのとおなじようにしっかりとみしめ、よく味わいながらみたいと思います。

神谷 ありがとうございます。でも、映画は娯楽でもありますから、肩ひじはらずに、どうぞゆつくり楽しんでみてくださいね(笑)。

小林 もちろんそうします(笑)。



神谷雅子さんのプロフィール



立命館大学文学部 卒。支配人だった映画館「京都朝日シネマ」の閉鎖を機に(株)如月社を設立し、代表取締役社長に就任。2004年12月に「京都シネマ」を開館した。立命館大学非常勤講師(映画産業論)も務める。この間の活躍が認められて、2005年度京都府あげばの賞を受賞する。

◆京都シネマ◆

3スクリーンあり、それぞれ座席数は104席89席、61席。京都シネマ会員は現在4000人。会員になると、入場料割引(通常一般800円のところ通常鑑賞料1000円)ほか、「シネマニュース」(毎月)、「COCCON鳥丸」内の飲食店の10%割引などの特典がある。所在地：京都市下京区烏丸通四条下ル

COCCON鳥丸3F

問い合わせ/TEL 075-353-4723

FAX 075-344-2212

E-mail: kyotocinema@kisara@shn.co.jp

(写真撮影・有田知行/2005年11月)

「食の安心・安全」をめぐる

「知事と和い和いミーティング」

—— 小林智子会長理事が参加、発言 ——

2005年10月26日、平安会館で、京都市民と山田知事が直接語り合う「知事と和い和いミーティング」が、「みんなで考える食の安心・安全」をテーマに開催され、府民約200人が参加しました。

今回の「知事と和い和いミーティング」の開催は、10月11日から11月10日まで、「京都府食の安心・安全推進条例（仮称）」の骨子案がパブリックコメント実施中で、この取り組みを広く府民に知らせ、同時に府民の意見を聞くのねらい。

山田知事を囲んでのパネルディスカッションには、京都府生協連の小林智子会長理事が消費者を代表するパネリストの一人として参加し、「安全」と「安心」の違い、リスコミュニケーションのとり方、消費者・事業者・行

政の3者によるネットワークの大切さなどについて意見をのべました。

ほかにパネリストは、久御山町でトマトを生産する酒部一成さん、京都府食品産業協議会会長の野村善彦さん、元京都新聞編集委員の鈴木富美子さんなど全部で7人。酒部さんからは「農家が誇りをもてるような支援を」、野村さんからは「京の食品産業の情報を全国へ、世界へ発信する場を作っていただきたい」などの要望が出されました。司

の山下淳氏。会場との意見交換では、京都府生協連生協活動推進委員の廣瀬佳代さんが、「条例を推進するため知事直轄の部局の設置」と「必要な財源の措置」の2点について要望を出しました。

このなかで、山田知事は「条例をふまえ、新しい食の安心・安全行政へ踏み出す」「食の安心・安全行政は子どもたちの未来にも大きな影響をもつ。男性もふくめてみんな考えていきたい」と積極的な姿勢を示されました。



山田啓二知事を囲んでパネルディスカッション



発言する小林智子会長



生産者の酒部一成さん（中央）



会場から発言する廣瀬佳代さん



府民200人あまりが参加

京都府食の安心・安全推進条例制定へ

「食品安全の社会システム確立へ、大きな前進」

京都府は、2005年12月

1日、「京都府食の安心・安全推進条例」の制定にかんする議案を府議会へ提出しました。

条例制定の背景として、2004年2月に丹波町で高病原性鳥インフルエンザが発生した

こと、府内で卵・野菜・牛肉・魚等についての不適正な表示事件があいついだこと、

またBSEにかんする検査基準の見直しなど、食品安全行政への不信と消費者の不安がひろく横たわっていることが

指摘されます。

こうした状況のもとで、京都府が食品の安全性と府民の安心感の確保にかんする条例を制定することは、時宜をえたものといえます。

2004年11月に実施された「きょうと食の安心・安全アクションプラン中間案」への

意見提出のなかでも、「食品の安全性確保にかんする条例を制定してほしい」という要望意見が多数にのぼっていました。

条例のポイント

府民の健康保護が最も重要

「前文」では、条例制定の目的として「府、食品関連事業者及び府民がその責務又は役割を果たすことにより、食の安心・安全の確保に関する施策及び取組を総合的かつ計画的に推進し、もって現在及び将来の府民の健康の保護に寄与するため」としています。

行動計画の策定と年次報告

第5条では「知事は、毎年、食の安心・安全行動計画に基づく食の安心・安全の確保に関する施策の実施状況を取り

まとめるとともに、当該実施状況について「食の安心・安全」審議会の評価を得た上で、当該実施状況及び評価の内容を公表する」としています。

調査・報告徴収・勧告

第19条では「知事は……食品等に含まれることにより健康に悪影響を及ぼすおそれがある要因について、必要な調査を行うことができる」と定めています。

必要な報告をもとめることや立入検査(20条)、および措置勧告(21条)、罰則(27、29条)を定めていることも注目されます。



京都府生協連は、府議会各派へ「京都府食の安心・安全推進条例」の制定にかんする懇談・意見交換会の開催を要請。2005年12月2日には、民主党・府民連合の中島則明、熊谷哲、北岡ちはるの各議員と懇談しました。

生協連からは、小林智子会長理事、鎌部千津子理事、坂本茂事務局長、牧野内孝子事務局長が出席しました。



2005年11月8日、日本共産党との懇談会を開催しました。松尾孝、新井進、島田敬子、西脇いく子、原田完、加味根史朗の各議員が参加。

生協連からは、小林智子会長理事、小峰耕二専務理事、坂本茂事務局長、牧野内孝子事務局長が出席。

京都生協社会的責任経営推進室・福田昌昭担当も同席しました。

府民参画と審議会

大きな柱のひとつとなっているのが「府民参画の推進」で、府の施策にたいする府民意見の反映、提案、危害情報申し出が定められています(22、24条)。

そのほか、調査審議・評価などをおこなう「食の安心・安全審議会」の設置も定められています。(25条)

きょうと食の安心・安全意見交換会(第1回)開かれる

2005年9月15日、府庁内で消費者団体との意見交換会が開催されました。これは、食の安心・安全の確保にかんする府や生産者・事業者の取組みについて、消費者との意見交換をおこなうことにより、消費者の意見を反映させ、相互の意思疎通をはかることを目的にしたもの。

生協連からは、坂本茂事務局長、牧野内孝子事務局長が出席しました。年4回の開催予定です。

意見交換会に参加したのは、京都生活協同組合、NPO法人コンシューマーズ京都、NPO法人京都消費生活有資格者の会、新日本婦人の会京都府本部など。

京都市消費生活条例施行記念 シンポジウム開かれる

「消費者教育／自ら行動する消費者をめざして」

—— 小林智子会長理事がパネリスト出席 ——

2005年10月14日、京都市女性総合センター・ウィングス京都で、京都市消費生活条例の施行を記念してシンポジウムが開催されました。テーマは「消費者教育／自ら行動する消費者をめざして」。市民70人が参加しました。

パネリストとして、京都府生協連・小林会長理事が参加し、消費者の視点から、発言しました。コーディネーター



京都市消費生活条例の施行を記念して

は、京都大学名誉教授・野村秀和氏で、京都市消費生活審議会会長をつとめられています。

パネリストとしては、小林会長のほかに、京都府立大学人間環境

内閣府・京都市の よびかけて消費者 団体懇談会開催

2005年10月12日、内閣府・京都市のよびかけて、消費者団体との懇談会が開催され、京都市生協連からは坂本茂事務局長、牧野内孝子事務局担当が出席しました。

京都府「安心・安全な消費生活の実現プラン」 アクションプランまとまる

2006年度の京都府アクションプランのひとつとして、消費者被害ゼロをめざした、「安心・安全な消費生活の実現プラン」の検討がすすめられています。

10月17日～11月16日の期間、パブリック・コメントがこなわれ、多くの府民意見が提出されました。意見の一部を紹介します。

●消費生活科学センターの充実
実
・消費生活審議会苦情処理委

めぐるくん推進友の会、京都市消費者モニター等経験者の会、京都市地域女性連合会、住みよい京都をつくる会、京都消費生活有資格者の会、コンシューマーズ京都（京都消団連）、使い捨て時代を考える会。京都府消費生活室も同席しました。

京都市文化市民局市民生活部・西出義幸部長が開会あいさつ、つづいて内閣府消費企画

画課より、消費者基本計画について報告がありました。坂本事務局長は、消費者施策をすすめるにあたって、現在、焦点となっている消費者団体訴訟制度についての生協連の見解をのべながら、近畿および京都ですすめている新しい消費者組織について説明しました。

各団体からは、財政的な支援の要請があいつぎました。

員会を積極的に活用すべきである。

●消費生活科学センターを消費者団体などに対しての支援の場として機能させる。

●「声かけ運動」を展開し、悪質事業者を排除する地域づくり

・被害の未然防止、早期発見、迅速な救済のためには、近くに身近で親切的窓口が必要です。

●消費者が自覚し、行動できるよう支援

●消費生活条例の見直し
・消費者の権利規定の見直し。
・個人情報が侵害されない権利。消費者が消費者団体を結成し、活動していく権利。
・不招請勧誘の禁止制度を設ける。

・不当取引類型の追加
・適合性原則の導入
・不当与信行為の規制
・団体訴訟制度への対応
・「公表」を迅速におこなう。

「たべるたいせつ」フォーラム

「食文化のいま」と京ブランド食品の試食会が大好評！

(協力：京都府食品産業協議会、後援：農林水産省近畿農政局、京都府、JA京都中央会、(株)京のふるさと産品価格流通安定協会、(財)生協総合研究所)



パネルディスカッション「京の食文化のいま」をテーマに

2005年11月24日、京都ホテルオークラ(中京区)で、「2005・京都・たべるたいせつ」フォーラム(第12回京都府生協大会)を開催。第1部のパネルディスカッションには320名、第2部の京ブランド食品の試食会には400名と、多くの参加者でにぎわいました。



<話題提供>

農林水産省近畿農政局 齋藤仁志次長



<来賓あいさつ>

京都府商工部消費生活室 中村美代子室長



<開会あいさつ>

平 信行副会長

「2005・京都・たべるたいせつ」フォーラムは、平信行副会長理事の開会あいさつ

第1部 京の食文化について考えあう

ではじまり、京都府商工部消費生活室 中村美代子室長より、京都府山田啓二知事のご祝辞のご披露をいただきました。

つづいて、農林水産省 近畿農政局 齋藤仁志次長より「食育基本法と食事バランスガイド」についての話題提供がありました。

これをうけて、第1部は「京の食文化のいま」をテーマにパネルディスカッションがこなわれました。

パネリストとして、京都府立大学・大谷貴美子助教授、京都府食品産業協議会・野村善彦会長、京都府生協連・小林智子会長理事が参加しました。コーディネーターは、京都府生協連生協活動推進委員・廣瀬佳代さん。

それぞれの立場から共通して出されたのは、「京の食文化」をしっかり学び、次世代に受け継ぎ、守っていく大切さについてでした。

「京都の生協活動功労者表彰式」開催

2005年11月24日、京都ホテルオークラで「2005年度京都の生協活動功労者表彰式」を開催しました。

京都府生協連の表彰制度にもとづき毎年おこなわれているもので、各会員生協から推薦された19名の功労者のみなさんに、小林智子会長理事より表彰状と記念品が授与されました。



小林会長理事より
表彰状と記念品をうけとる澤之井穂さん

第12回京都府生協大会

「2005・京都・

パネルディスカッション「京の食文



大谷貴美子さん 野村善彦さん 小林智子会長理事



コーディネーターの廣瀬佳代さん



第2部 京ブランド食品試食会

この試食会には、京都府食品産業協議会に加盟する9つの組合の50事業者から、おそ
うざい・湯葉・パン・うどん
ん・納豆・漬物・豆腐・京菓
子など93品目の試食品が展
されたほか、京都生協のお歳
暮やおせち料理の試食、京都
府のおばんざい弁当の見本展
示などもあり、会場内はたく
さんの参加者にぎわいまし
た。



野村善彦さんから当日出展のご協力をいただいた京都府食品産業協議会に加盟する組合代表を紹介。各代表より、参加者へ「ひとことメッセージ」がありました



試食会は大盛況でした。京ブランド食品のたしさを味わいました

〈出展いただいた組合（順不同）〉
京そうざい事業協同組合、京都湯葉
製造販売事業協同組合、京都府パン
工業組合・京都パン協同組合、京都
府製麺卸協同組合、関西納豆工業協
同組合、京都府缶詰協同組合、京都
府漬物協同組合、京都府豆腐湯揚げ
工業組合、京菓子協同組合

2005年9月4日 京都府総合防災訓練おこなわれる

京都府生協連とJAグループは応急支援物資の調達・搬送訓練に参加



お茶や牛乳を配る訓練では、子どもたちもお手伝い。写真はお茶を配って山田知事（京都府災害対策本部長）と握手する実佳ちゃん



ヘリによる救急搬送訓練▶



小川正生協連災害対策委員長を先頭に支援物資を配りました



小峰耕二専務理事、鎌部千津子理事 京都生協・山根芳子理事と山田知事を囲んで

毎年9月に、京都府総合防災訓練が実施されています。2005年は、主会場である福知山市由良川河川敷（音無瀬橋下流）での訓練とあわせて、福知山市内136地域で水害にたいする「防災対応型訓練」がおこなわれました。

本番さながらの主会場訓練

9月4日、「前日から総雨量150mm程度の降雨があり、午前6時に大雨・洪水警報は解除されたが、洪水注意報は継続中。午前6時30分、京都府北部で三時（みとけ）断層を震源とするマグニチュード7・0の大地震が発生」という想定の大

もと、京都府総合防災訓練がおこなわれました。前年の台風災害をふまえ、2005年は地震と水害を想定した訓練となりました。また5月に誕生した京都府災害ボランティアセンターも福知山会場と丸太町会場の2カ所で訓練に初参加しました。

主会場での訓練は、消火



小林智子会長理事（左）、JA京都中央会・牧野吉明部長（右）

訓練、傷病者の救出救助・医療救護訓練、緊急物資搬送訓練、ライフライン施設の復旧訓練などがおこなわれました。なかでも自衛隊ヘリによる負傷者の救出救助訓練、大型トレーラー・ユニボ・ダンブ連携の道路啓開訓練など、本番さながらの訓練が目されました。参加者は1660人にのぼりました。

京都府生協連の訓練

京都府生協連は、京都府との「応急対策物資協定」にもとづき、応急支援物資の調達・搬送のための訓練にJAグループとともに参加しました。京都生協はじめ大学生協、府庁生協などの組合員・役員31人が参加して、JAグループのみなさん（20人）といっしょに、応急支援物資の牛乳・お茶（200ml 各500本）を会場で配りました。



人工呼吸と心臓マッサージの講習を受ける子どもたち

事前に地域防災学習会を開催

総合防災訓練に先立ち、8月26日、京都生協福知山・三和・大江行政区委員会と生協連の共催で、「福知山地域防災学習会」をひらきました。小学高学年の子どもたちもふくむ18人が参加し、「いざ」というときに役立つ「救命方法・応急手当」について学びました。開催にあたっては、京都府中丹広域振興局と福知山消防署の協力をいただきました。



訓練に参加された生協とJAグループのみなさん

消費者支援機構関西が設立総会

多くの消費者団体・関係者の経験と個性ある力を集めて

2005年12月3日、大阪府立女性総合センターで、NPO法人消費者支援機構関西の設立総会が開催され、関係者130人が参加しました。来賓として、

民主党・泉ケンタ衆議院議員、民主党・吉井英勝衆議院議員が出席したほか、京都府から商工部消費生活室・中村美代子室長、消費生活科学センター・渋谷悦子センター長が出席しま



多くの消費者団体と関係者の力をあつめて設立

した。民主党・松井孝治参議院議員からもメッセージがよせられました。

同機構は、消費者被害の未然防止と拡大防止を可能とする消費者団体訴訟制度の導入が目前にせまっているなかで、関西圏を中心に消費者問題の解決のために活動している消費者団体や消費者問題に取り組む人びとがそれぞれの経験と個性ある力を集め、消費者団体訴訟制度の担い手となる新しい消費者組織として設立されたもの。京都府生協連など2府5県で構成する近畿地区生協府県連協議会、NPO京都消費者契約ネットワーク、コンシューマーズ京都などが設立をよびかけていました。

当日は、定款、役員、事業計画などを賛成多数で承認。会長に北川善太郎、理事長に榎彰徳、副理事長に片山登志子、千神國夫の各氏が就任しました。京都府生協連・小峰耕二専務理事も理事に就任しました。



京都府生協連小峰耕二専務理事も同機構理事に就任しました

第17回近畿地区生協・行政合同会議開かれる

2005年8月30日、奈良市日航ホテルにおいて、近畿地区生協府県連協議会の主催による第17回近畿地区生協・行政合同会議が開かれました。テーマは「地域社会の『安全・安心』な暮らしを支える上での生協の役割」。基調講演として、くらしと協同の研究所・浜岡政好常任理事（佛敎大学教授）から「安心安全なまちづくり〜地域社会と生協の関わり」と題するお話がありました。

京都府からは商工部消費生活室・中村美代子室長、藤谷博司副室長、京都府生協連からは小峰耕二専務理事、坂本茂事務局長が参加しました。

厚生労働省近畿厚生局健康福祉部・鈴木監視・監査指導官から、消費者基本法と基本計画、個人情報保護法の説明があったのち、生協への改善要望点として、①組合員管理、②総代会・理事会の運営、とくに理事・代議員の実出席と討議、議事録の作成のし方、③規約・諸規定の整備、の指摘がありました。

第54回京都府社会福祉大会で京都生協に感謝状

2005年8月31日、京都テールサ（南区）で第54回京都府社会福祉大会が開催されました。前年の台風23号被害支援募金による社会福祉事業協力者の代表として京都生協が表彰され、小林智子理事長（府連会長理事）が京都府社会福祉協議会会長・立石義雄氏より感謝状を受けました。



第54回京都府社会福祉大会にて

京都府生協理事長懇談会

2005年8月31日、コープイン京都で、2005年京都府生協理事長懇談会がおこなわれました。日本生協連政策企画室・藤井喜継室長をまねき、「日本の生協の2010年ビジョンと日本の農業に関する提言について」をテーマにお話しいただきました。つづいて、それぞれの生協の問題意識や2005年度の活動の課題などを出しあって交流をふかめました。

10会員生協の理事長・専務が参加しました。



第6回京都府協同組合職員体験・交流学校



救命胴衣をつけて定置網引き上げを体験

2005年9月30日～10月1日、京都府協同組合職員体験・交流学校が開かれました。

この学校は、おたがいの活動内容の理解や交流をふかめ、連携をつよめるために、4つの協同組合連合会（漁連、JA中央会、森連、生協連）が毎年交代で開催しているもので、今回は漁連が当番。早朝の定置網の引き上げなど、めったに体験できない内容に参加者のみなさんは大満足でした。23人が参加しました。2

006年は生協の当番となっています。

京都府災害ボランティアセンター研修会

災害ボランティアコーディネーターの養成を目的に、2005年10月1日と11月13日、京都テルサにおいて研修会が開かれました。2回の研修会には、京都府生協連災害対策委員の上村馨さん（京都生協）と牧野内孝子事務局担当が参加し、地図を活用したDIG (disaster intelligence game)の略)研修を体験しました。



大きな白地図に川、田、道路、鉄道などを色分けし、水害を予想～前年の大江町の水害を実例に学びました（11月13日の研修会）

KYOのあけぼのフェスティバル・ワークショップに参加

男女共同参画「わたしの立場からV」

「男子厨房に入って何が見えてきたか」

2005年10月15～16日、KYOのあけぼのフェスティバルが京都テルサで開催されました。京都府生協連男女共同参画委員会は、15日午後、「男女共同参画」わたしの立場から」のワークショップで参加し、コープ二条駅で活動する「男の料理教室」のみなさんといっしょに「男子厨房に入って何が見えてきたか」を語りました。10代から70代の男女30人がさまざまなかたちから交流。京都府生協連生協活動推進委員・高田艶子さんの司会ですすめられ、「食はくらしの原点」「厨房から世界が見える」「料理をつくる人への感謝：」「料理は創造である」などの視点をみんなで共有しました。



男の料理教室代表の石黒徹さんと菊地範夫さん、高校生の大島邦衛さん、講師の武内タキ子さんがご自分の体験を通して報告。会場のみなさんと活発に意見の交流がすすめられました



試食タイムでは、石黒さんが用意した自慢の紅茶ポークをその場で切って盛り付け。大好評でした



3分の1が男性の参加でした

浦島エコローの森づくり 植樹ボランティア

「浦島エコローの森づくり」

は、京都府漁連が丹後半島・太鼓山で、5年計画で取り組む漁民の森づくり活動推進事業のこと。最終年となった2005年10月23日、協同組合どうしの連携として、京都の生協・JAのボランティア36人が植樹に参加しました。京都精華大学・板倉豊助教授による「豊かな海は森が育む」と題する記念講演ののち、風力発電用風車のある太鼓山まで移動し、雨のなか、たくさん

類の苗木を植えました。京都生協・渡辺明子副理事長と京都府生協連・鎌部千津子理事

が、生協を代表して記念植樹をしました。地元・漁連婦人部のみなさんが大漁鍋でもてなしてください、雨にぬれて冷えた身体も芯からあたたまり、ボランティアのみなさんもほっこり顔でした。

次年度以降は、植樹した木が大きく育つように、下草刈りなどの環境整備の取り組みがすすめられる予定。



板倉豊先生



記念植樹する、京都生協・渡辺明子副理事長(中央)と府連・鎌部千津子理事(右)

京都府生協連理事会で 学習会

2005年10月11日の理事会で、くらしと協同の研究所・浜岡政好常任理事(佛敎大学教授)を講師にむかえ、「安心安全なまちづくりー『地域社会と生協の関わり』ー」と題する学習会をしました。お話の要旨は京都府生協連のホームページに掲載されています。



浜岡政好先生

京都府勤労者健康 スポーツフェスティバル

2005年10月16日、丹波自然運動公園で、京都府勤労者健康スポーツフェスティバルがおこなわれました。労働者福祉協議会主催によるもので、京都府生協連は、せいきよう虹の会農産部会卵分会の協力で、温泉卵入りカレーの模擬店を出店しました。



とても寒い日だったので温かいカレーは好評でした

2005年度 ライフプラセミナー

2005年10月22日、平安会館(上京区)で「毎月あと1万円黒字を増やし、それを賢く殖やす方法」をテーマにライフプランセミナーが開かれました。講師は、昨年につづいて井戸美枝氏(社会保険労務士・CFD®認定者)。京都生協共済会と京都府生協連の共催によるもの



「お金を貯めるコツは、先に貯める額を決めてから支出を見直すこと」と井戸美枝先生

で、今回で4回目。参加者は京都生協32名、大学生協1名でした。

第6回産直フォーラム(鳥取)

2005年10月29〜30日、「第6回産直フォーラム」が、コープ牛乳産直交流協会・産直フォーラム実行委員会の主催により、鳥取市で開催されました。

初日は、鳥取県畜産農協創立25周年記念イベントにつき、シンポジウムがおこなわれました。山本祐司会長の基調報告、参加者のリレートークのなかで、コープ牛乳や産直活動の課題について、率直な意見交換がおこなわれました。

2日目は、「生産者と消費者の交流の集い」がおこなわれました。



基調報告する山本祐司会長

おもな行事のお知らせ

2006年新春交歓会

主催：京都府生協連
 日時：2006年1月7日(土)
 12:00~13:00
 会場：コープイン京都2F
 (中京区柳馬場蛸薬師上ル)

「知って安心！ 鳥インフルエンザを考える」シンポジウム

ウィルスの変異と防疫対策を専門家が徹底説明
 主催：近畿農政局、近畿厚生局、近畿各府県畜産技術連盟
 日時：2006年1月11日(水)
 13:30~16:30
 会場：キャンパスプラザ京都「第1講義室」(JR京都駅ビル駐車場西側)

京都府生協連と各会員生協の相互連絡防災通信訓練

日時：2006年1月17日(火)
 7:00~10:00
 内容：京都府生協連災害対策本部設置と立ち上げ、相互連絡防災通信訓練

食生活と健康を考えるシンポジウム

主催：農林水産省近畿農政局、食を考える国民会議、(独)農畜産業振興機構
 日時：2006年1月23日(月)
 13:00~16:30
 会場：京都市呉竹文化センター・ホール
 (伏見区 近鉄・京阪丹波橋駅すぐ)
 内容：TVでおなじみの服部幸應先生の「特別講演」があります。

2005年度京都府生協連監事・役職員研修会

主催：京都府生協連
 日時：2006年2月15日(水)
 13:30~16:00
 会場：せいきょう会館4階第1会議室
 対象：会員生協監事、役員、職員
 内容：学習講演「戦後60年—日本経済の過去・現在・未来」
 〈講師〉大阪市立大学名誉教授
 林 直道氏



探訪 京都テルサに引っ越しました！ 京都府消費生活科学センター

京都府消費生活科学センターは、24年前に中京区西ノ京に開設され、2005年9月末に京都テルサに移転しました。JR京都駅から徒歩10分、地下鉄九条駅より徒歩5分、近鉄東寺駅より徒歩5分と交通の便もよく、府内4カ所の広域振興局と光ファイバーで結び研修室や消費者テスト室を完備するなど設備面も充実しました。

「科学」を冠したそのユニークな名前は、「テスト機能」を兼ね備えていることから。これまで、商品トラブルの原因究明にも大きな役割を果たしてきました。たとえば「クリーニング店での穴あき」は、じつはクリーニングのせいではなく、虫食い、あるいは擦り切れが原因だったなど。また「酢で掃除するのはなぜ？」「せっけんでせんたくするのはなぜ？」などの疑問やいわゆる「おばあちゃんの知恵袋」を科学的な切り口でときあかし、好評を博してきました。

架空請求や悪質住みリフォーム、消費者契約に関するトラブルなど、消費者被害はますます悪質化し、広がりを見せています。京都府消費生活科学センターは、府民の身近な相談窓口でもあり、被害にあわないために広く府民への啓発活動にも取り組んでいます。05年春からはじまった京都府・京都市合同の週末電話相談には、予想以上の利用があるそうです。



渋谷悦子所長

被害にあうのは、一人ぐらしのお年寄りや学生が多い。どうすれば、必要としている人に必要な情報をとどけられるかが悩み。身近な被害を発見できる見守り活動や福祉関係者との連携をつよめたい。また、被害の相談活動だけでなく、被害の未然防止や早期発見にもっと力をいれていきたい」と渋谷悦子所長は話します。

京都テルサには、女性総合センターはじめ、若年者ジョブ支援・中小企業労働相談窓口などもあり、多くの人びとが訪れます。「安心・安全な消費生活の実現プラン」の策定もすすみ、今まで以上に身近な存在となった京都府消費生活科学センターへの期待が広がります。

くらしの相談 ●月～金 9～16時 (12～13時除く) ☎075-671-0004
 ヤミ金融・架空請求・個人情報 の相談 ●月～金 9～17時
 週末電話相談 ●土・日 10～16時 ☎075-257-9002
 ※相談内容により専用電話があります。詳しくは、☎075-671-0030代まで。



京都府消費生活科学センターは京都テルサ西館2Fにあります



消費者テスト室。衣服の繊維1本1本確認できるマイクロスコープ(写真上)。消費電力量がわかるエコワット、塩分計、糖度計。テスト室の利用と機器の貸し出しは要予約(無料)



京都府消費生活科学センター

〒601-8047 京都市南区新町通九条下ル
 京都テルサ内
 Tel075-671-0030 Fax075-671-0016
 E-mail kyo-shohisen@mail.pref.kyoto.jp



右手奥が消費者相談室



来所者用パソコンはだれでも利用できます。